

2016年、あけましておめでとうございます。北星会の皆様にはつつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。私も昨年はどうやら無事に過ごすことができました。

今年の年賀状にしたための腰折れは次の三首です。

寒風に日の丸さやに翻るこの地この空思ひは深く  
蒼穹をつんぎきて立つ川棚の秀峰登山歴五十年  
幾十年ぶりぞ鬼岳見はるかす五島の灘は秋の陽に映ゆ

昨年は戦後70年、この記念すべき年に知覧を訪れ特攻平和会館を見学できて本当によかったです。2月でしたので薩摩の風も結構冷たく、時局がら身も心も寒々とした 思いをしながら寒風に翻る日の丸を仰いだことでした。

2首目、私にとって北高は3番目の勤務校でしたが、2番目の川棚高校時代に川棚の名峰虚空蔵山に初めて登りました。28歳のときでした。高さは608mにすぎませんが、川棚のマッターホルンと称されるほど山容がすばらしいのです。何10回となく登りましたが、昨年は久しぶりに、この山と出会って50年を記念して一人で登りました。川棚では50年来、この山里に建設が予定されている石木ダムの問題がくすぶり続けています。山からの帰路、建設反対の人たちが座り込んでいましたので、私も休憩かたがた、しばらく一緒に座ってきました。いろいろ賛否の意見があるようですが、私はやはりこののどかで美しい山里の自然と人々の暮らしを、佐世保の水不足の解決のために犠牲にすることに賛成する気持ちにはなれません。

3首目、4番目の勤務校は福江の五島高校でした。そこを40年何年ぶりに訪れて、福江島のシンボルのよううな、川棚の虚空蔵とは対照的に女性的な鬼岳に登りました。山麓の崎山という集落に家庭訪問に行き、最終バスもなくなった夜遅く遠路テクテク歩いて帰っていたら、後ろから走って来た軽トラの人が親切にも「乗らんかな？」と声をかけて、職員住宅近くまで送ってくれたことなどが昨日のここのように思い出されました。

私も今年、数えでは傘寿となり、現役時代の緊張感あふれる日々がなつかしく感じられます。しかし過去をなつかしがってばかりいてはいけませんね。ボケないうちはまだ前向きに暮らさなければ。そう思って今年も辞書を片手に洋書と格闘する日々を過ごしたいと思います。

皆さまのますますのご健勝とご活躍を心から祈念いたします。